

① 研究課題名	消化器内科診療における生成的人工知能の活用法に関する検討
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<p>対象者：倫理委員会承認日以降、魚沼基幹病院消化器内科で診療を受け、緊急入院となった、あるいは主治医が必要性を認めた患者さん。</p> <p>対象期間：研究期間は倫理委員会承認日から2027年3月31日とする。登録期間は倫理委員会承認日から2年間とする。</p> <p>研究責任者：新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・魚沼基幹病院 消化器内科 特任教授 須田 剛士</p>	
③ 概要	
<p>消化器内科診療は、対象とする臓器、病態、治療選択肢が多岐にわたり、物流や人的交流の国際化に伴う疾病の多様化と医学・医療の急速な進歩に立脚して日々適切な診断と治療を提供することが極めて難しい状況となりつつあります。</p> <p>近年、生成系人工知能（generative artificial intelligence：生成 AI）が急速に進歩し、医療分野への応用や利用も現実的となってきました。本研究では、消化器内科診療における診断と病態把握、ならびに治療方針決定過程で生成 AI にも情報を提供し回答を得て、その活用法を明らかにするとともに、有用な回答に関しては当科と主治医がその内容に責任をもって実際の診療にも役立てます。</p>	
④ 申請番号	E2024001101
⑤ 研究の目的・意義	<p>消化器内科診療は、対象とする臓器、病態、治療選択肢が多岐にわたり、物流や人的交流の国際化に伴う疾病の多様化と医学・医療の急速な進歩に立脚して日々適切な診断と治療を提供することが極めて難しい状況となりつつある。</p> <p>近年、生成系人工知能（generative artificial intelligence：生成 AI）が急速に進歩し、医療分野への応用や利用も現実的となってきた。本研究の目的は、消化器内科診療における診断と病態把握、ならびに治療方針決定過程をより効果的で円滑に進めるための合理的な生成 AI の活用法を明らかにすることであり、実施することでより多くの情報に基づき、客観性の高い医療を提供できる可能性が期待される。</p>
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から2027年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>電子カルテに保存されている情報（症状、病歴、経過、検査結果など）を個人が特定されないよう匿名化し、生成 AI で解析を行い、医師の診断・治療内容と生成 AI の診断・治療方針を比較することで、消化器内科診療における生成 AI の効果的な活用法方法を検討します。その過程で有用な回答が得られた場合には、当科と主治医がその内容に責任をもって実際の診療にも活用します。研</p>

	究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
㊸利用または提供する情報の項目	病歴（問診内容、年齢、性別、治療内容、入院期間、入院回数、転帰など）、診察所見、処方薬内容、血液検査結果、生理機能検査結果、放射線画像検査結果、内視鏡検査結果、病理組織検査結果など、いずれも個人の特定にはつながらない情報
㊹利用の範囲	新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・魚沼基幹病院 消化器内科
㊺試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・魚沼基幹病院 消化器内科 特任教授 神田 達郎
㊻お問い合わせ先	魚沼基幹病院 消化器内科 須田 剛士 Tel : 025-777-3200(代) Fax:025-777-5067